

八千代田精密株式会社

航空宇宙機器部品加工における生産量 拡大要請の顧客ニーズに対応する体制の構築

ボーイング787型機の量産決定に伴い
最新鋭の設備導入により、事業拡大を目指す

事業の背景・目的

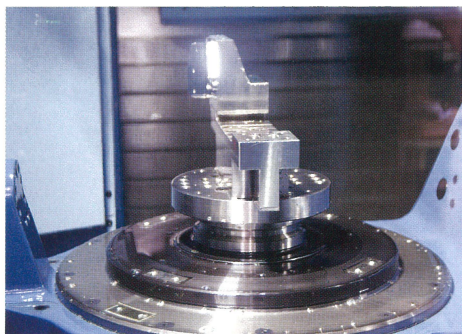
航空機業界では、今後20年間で民間旅客機の生産が右肩上がりが増えるとのこと。アメリカのボーイング、ヨーロッパのエアバスの2社の今後20年間の機数が32,000機から33,000機を新造機として生産されて

いく予定。航空機という特殊な業界の中で、仕事の量を確保していくために、設備投資が不可欠となる。

事業内容

ボーイング787型機の量産決定に伴い、当社の創業以来の取引先である富士重工業株式会社から生産量拡大の要請を受けた。ボーイング787は、ボーイング社の次世代中型ジェット旅客機で一番新しい機体。それを現在、月産10機で推移しているが、2年後に12機、4年後には14機と増産していく予定。将来は16

機まで増産の要請もきている。当社の現行の設備では、14機になると対応が困難になるため、古い設備の代替え機としての要素も含め、量産に対応するため、新規機械設備として、5軸マシニングセンターを導入。コスト削減と生産性向上を目指す。



3軸から5軸対応機で複雑形状の部品製造の時間が短縮される。

DATA

八千代田精密株式会社

事業の成果

当初計画した状況までは成果としてあがっていないが、徐々に現れている。航空機はすべて受注型産業であるため、取引先に新規機種を導入したことを伝えることにより、受注が確実なものとなる。逆に、既存のままでの対応の場合は、受注が困難になるため、高価な機械であるが、

常に設備を充実させていく必要がある業界でもある。最先端の性能をもった機械を導入したことで、複雑形状の部品加工の量産が可能になった。また、無人加工時間が増えたことにより、コスト削減が可能となり、生産性が向上している。



5軸マシニングセンター導入により、コスト削減、生産性向上につながる。

今後の展望

航空機はおよそ20年間飛行する。初号機が生産されて30年後に最終機が生産されるとして、最終機が20年間飛ぶまでを考えると50年間、最終機が退役するまで約半世紀のあいだ同じ部品を作り続けていくことになる。新造機の要請があった場合に、20年後、30年後、50年後を

見据えて体制を整え、受注量を確保していくためには、最先端の性能で対応可能であることをアピールしていかなければならない。今後も確実に受注していくためと、取引先のコスト削減要求に対応していくために、新機種導入を計画していく必要がある。

- ・ 航空宇宙機器部品加工を通しての精密部品加工
- ・ 3D CAD/CAMを利用した3次元形状加工及びプログラム作成（3軸から同時5軸加工可能）、ソリッドデータ (CATIA V4.V5を含む) 対応可能
- ・ プローチ加工、セレーション加工等



代表取締役社長
栗木 和彦

住 所
本工場
米沢市窪田町窪田字
東小境1310-2
第2工場
米沢市窪田町小瀬字鎌倉999-1

電 話
(代表)0238-37-2723

FAX
0238-37-2812

e-mail
info-yachiyodaseimitsu
@yachiyoda.co.jp

設立年
平成12年3月

資本金
2,000万円

従業員
39名